5．大阪商業大学における起業教育　取組紹介

①第17回 全国高等学校ビジネスアイディア甲子園



全国高等学校ビジネスアイディア甲子園は、「世に役立つ人物の養成」という大阪商業大学の建学の理念に基づき、社会の変化に対応し、自立した人材育成を促進するのが目的として、「起業教育」の実践の場として2002年に創設されました。チャレンジ精神や、問題発見能力、コミュニケーション能力などを養う場として活用されています。今回は全国133校から7,591件の応募がありました。書類審査をもとに、６件が最終審査に進出しました。それぞれ５分間のプレゼンテーションを実施し、新規性や実現性、表現力などを審査員10人が総合的に評価しました。

運営は、在学生を対象にした「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」で受賞した学生ら８人が担当しました。審査の待ち時間には、ビジネスアイディア甲子園の過去の受賞作に関するクイズなどが行われ、参加者同士が交流を深めました。





受賞作品

■グランプリ

九州産業大学付属九州高等学校２年

グループ名「ハナ花」

受賞作品タイトル「It's my flower　それは、私の…」



同高造形芸術科に所属する秋森知江さん、岩隈可純さん、篠田有梨佳さんの３人は、デザイン演習の授業の課題として取り組んだ。６月に開催された文化祭のテーマが「開花」だったことから、傘の柄に花を付けて目印にするというアイデアが浮かんだという。

さらに、布製の手作りキット商品とすることで、他と差別化を図った。特に子供向けの教材として幼稚園・保育園などに展開。「作る楽しみや、整理整頓、ものを大切にする心などを育むのに役立つはず」と篠田さんは説明する。

最終審査のプレゼンテーションにも工夫を凝らした。まずキット化したものを審査員に手渡してPR。また岩隈さんの５歳のいとこに実際に作ってもらい、「できた！　かわいい」と笑顔で喜ぶ映像を流し、アピールした。秋森さんは「頑張った甲斐がありました」と話していた。

■準グランプリ

青森県立八戸商業高等学校２年

澤口 瑠利 さん

受賞作品タイトル「変幻自在ひんやり君」



学校で吹奏楽部に所属する澤口さん。「夏休みに外で練習をした時、何カ所も蚊に刺された。その際、保冷剤が硬くて、腫れた足を冷やすのに困り、柔らかいのがあったらと思いつきました」と笑う。

既製品の保冷剤の成分を調べた上で、ぬるくなったら色が変わり換え時がわかる▽粘土のように好きな大きさにちぎって使える▽誤飲しないようにがい味にする――などの自分なりのアイデアを盛り込んだ。

「準グランプリなんて信じられない」という澤口さんは「発表用の資料を作るのが一番大変だった」と振り返る。就職希望だが、「今回の受賞で大学でビジネスについてもっと学ぶのも楽しそうと思いました」と将来への意欲を語った。

■準グランプリ

大阪府立佐野工科高等学校３年

グループ名「課題研究　自然災害対策班」

受賞作品タイトル「オチルーフ」



同高産業創造系の野元公貴さんと棚﨑樹勇さんは、雪下ろしで亡くなる高齢者が意外に多いという社会課題に挑んだ。

既製品のタイプや、メリット、デメリットを確認しながら、どうすればもっと良い商品にできるか検討した。最終的に、屋根の板の一部が上下に動き、溝ができる仕掛けを考えた。通常は平らな屋根に、レバー一つで溝ができると、積もった雪は割れながら溝を滑り落ちるという。動力不要でコストがかからないよう工夫した。

さらに夏休みに実際に試作し、動きを確認。新潟県の防災の研究員にアドバイスをもらうなどし、審査員から高く評価された。「いつか実際に試してみたい」と夢をふくらませていた。

■審査員特別賞

北海道旭川工業高等学校３年
上見 七桜 さん
受賞作品タイトル
「使い切り固形ハンドクリーム」



大阪市立大阪ビジネスフロンティア
高等学校１年　吉田 悠人 さん
受賞作品タイトル
「シール型漂白剤」

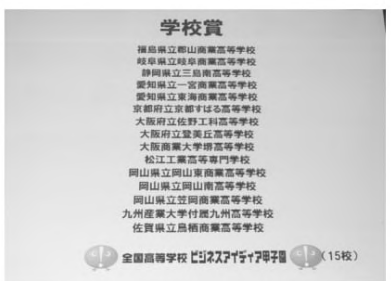


佐賀県立鳥栖商業高等学校３年
グループ名「チバナチ」
小野那澄さん、千葉紫陽花さん
受賞作品タイトル
「風ヌケール」



■学校賞　15校

福島県立郡山商業高校
岐阜県立岐阜商業高校
静岡県立三島南高等学校
愛知県立一宮商業高校
愛知県立東海商業高校
京都府立京都すばる高校
大阪府立佐野工科高校



大阪府立登美丘高校
大阪商業大学堺高校
松江工業高等専門学校
岡山県立岡山東商業高校
岡山県立岡山南高校
岡山県立笠岡商業高校
九州産業大学付属九州高校
佐賀県立鳥栖商業高校



■交流会

表彰式前に、本学学生の司会進行・運営による交流会を開催しました。今年度は、参加していただいた皆さんの交流を深めることを目的に、本学学生を交えてランチ交流、イベント展示見学、クイズ大会を開催しました。参加いただいた皆さんからは、「他県、他校の生徒や大学生と交流を深めることができ、楽しい時間を過ごすことができた」との感想をいただきました。









■審査委員長講評



大阪商業大学　起業教育委員会委員長
柴田孝准教授

今年の一つの特徴として、形になっているもの、あるいはすぐに形になりそうな強い期待を感じさせる作品が多かったと思います。また、何ができて、何ができなかったのか、検証されているものもありました。

最終審査に残った６件に大きな違いはなかったのですが、あえていえばアイデアをどううまく伝えるか、その工夫の差だったように思います。書類審査だけではわかりにくかった点が、最終審査を通じてよく理解でき、プレゼンテーションを課している意義を感じました。

これからの時代、世の中にある課題を探して発信していく力こそが求められています。今回の受賞を励みに、また新しいことにチャレンジし続けてもらえれば、と期待しています。

■学生スタッフのみなさん

「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」の入賞者等で構成する学生運営委員会メンバー。学内コンテストへの応募や授業での自分自身の経験を活かして、高校生の最終審査のサポートを務めました。

最終審査で司会やステージマネジメント等の運営に携わることで、新たな発見や自分自身の成長につながる貴重な機会となりました。



（左から）
内藤 咲蘭 さん　大沼　光 さん　今城 友寿 さん　藤川 功基 さん
高田 夢海 さん　北野 菜穂 さん　澤村 知紗 さん　千種 水澪 さん